

「映画少年」

(2015)

小学校低学年の頃、父に連れられて見た映画「ターザン」が多分、僕と映画の初めての出会いだつただろうと思つ。嵐寛寿郎の「丹下左膳」もその頃かも知れない・・・。そう言えども、僕の西部劇ベスト10に入っている「ショーン」を観たのも父に連れられての事だつた。何しろ我々戦前生まれ世代の幼少期には、テレビやゲーム機等はもちろん無く、せいやい娯楽といえば「面白ブック」か「紙芝居」位、そんな事よりも何よりも食べる事・甘いおやつに憧れていた頃で、木に登つて山桃・イチジクを貪り、遊びといえば相撲、三角野球、ビー玉、小川での鮎捕り、山でのメジロ捕り・・・といった時代であつた。テレビがまだ普及していないある日、近所の電気屋さんが我が家にテレビを見本に置かせてくれ・・・らしくて、初めてテレビなるものを目にした。夕方になると近所の皆さんも大勢我が家に集まりプロレス（力道山・ルー・テーズ・キングコング・・・等）に熱中していた。

戦後の混乱もやや落ち着いた中学生時代だが、学校指定の映画以外は、映画鑑賞が禁止されていたようで、あの頃観た映画で思い出せるのは「赤い風船」「汚れなき悪戯」「喜びも悲しみも幾年月」・・・他にもあつたと思うがよく思い出せないし、それ程感動を受けた記憶もない。

それよりも何よりも嬉しかったのは、中学を卒業したばかりの春休みの日々の事である。「これからは映画が自由に見られる……」とばかりに

市内の映画館をはしごした覚えがある、3本立て50円だった。映画とは言つても美空ひばりや小林旭・・・等が名を連ねている娯楽映画だった、内容は全く記憶には残っていない。

高校から大学にかけては、やたら人生だ・哲学だ・愛だ・芸術・・・だと、妙に色気付き、必死に本を読み、映画にも真剣に取り組んだ。どこかの主催の「映画鑑賞券プレゼント」のふれこみに惹かれ、映画鑑賞感想文に応募しては次の映画のタダ券をゲットしていた。

その頃我々を驚愕させたのは「70ミリ大作映画」の出現である。「南太平洋」「ベンハー」「史上最大の作戦」、・・・等などであった。

一方、授業の第2外国語でフランス語を学んだ事もあり、フランス映画に特に興味を持ち、良く観た。ジャンヌモローのしつとりとした美しさに魅せられた、その中でいまだに僕の生涯映画ベスト10を占めているのが「モデラート・カンタービレ（雨のしのび逢い）」、「シベールの日曜日」、「かくも長き不在」である。社会人になつてからも、この映画をもう一度観たい願望が嵩じてくるばかりであった。東京在住の時、何かのイベント「フランス映画週間」（？）で、何とこれらの再上映の予告があり、こんなマイナーな映画を誰が・・・と鷹を括りながら、密かに胸を高鳴らせ当日、有楽町の劇場に出向いたのはいいが、チケットは既にすべて売り切れ・・・のお粗末であった。今でこそDVDの発売・レンタル、BSでの再放送はあるが、映画館でのあの興奮の再体験は忘れら

れない。今でも時々映画館に行っているが、最近特に感じるのは、今時のお客さんは映画の本編が終わると同時に全員がガタガタと席を立つてしまう。僕は昔から本編の後に流れる音楽と出演者・制作スタッフ・・・などのタイトルバック映像を原語で口の中で発音しながら余韻を惜しむという慣わしがあるのだが、最近は周りがうるさくて、落ち着いて余韻も楽しめない。

40年前、大阪で万国博が開かれ、我々建築屋にとつても興味尽きない大イベントであったが、映画好きが嵩じて、これを僕自身で映画に仕立ててみよう!との思いがつのり、人ごみと猛暑の中、必死で8ミリビデオを廻した覚えがある。当時は8ミリフィルムの編集は自分で切り貼りする事が出来た。今となつては、8ミリは歴史の遺物になつてしまつた。

その後、映画という娯楽は次第に捨てられ、テレビ・スマホ全盛時代となつてしまつたが、僕の映画への興味は廃れることはなく、映画放送がある度に、真面目にVHS録画を続けていたる内に、ダンボール数箱分のストックとなつてしまつた。この収納に困り果て、数年前思い切つてこれらのVHSテープのDVD化を思い立つた、引退後の身だつたし、何とかやり遂げ、本箱の中に見事なDVDアルバムとして収まつた。

そういうしている内に2010年、世は一挙にデジタル・BS放送時代に突入、お陰で画面は大型化し、ビックリする程美しくなり、録画も

BRとなつた。やつとの事でマイローレ映画アルバムが完成したばかりだつたのに・・・。最近は観たいと思った時にはディスクの販売やレンタルもあり、パソコンのソフトを使えばBR化は可能の様だが、最近又もや“ソーソー、映画のTV放映のBR録画を甲斐甲斐しくも始めてしまつた、身に付いた昔からの習性である。残された余生を考えると、とても自分自身で観る事はないと思うが、哀れ！収集癖という習性とは恐ろしいものーところが最近、テレビも4K時代に入りし、まだ高価だが世の中に定着し始めた・・・トホホ！と悩んでいたところ、最新情報によると、何と3年後には8Kの時代になるというではないか・・・何だと！！

幼年期自然との共生を生き、壮年期アナログ技術の時代を必死に生き伸びてきた我々戦前世代は、人生の後半に差し掛かると同時に嵐のようなデジタル化の波に飲み込まれ、未だに翻弄され続けつつも、一方ではねじり鉢巻きをしてのデジタルとのお付き合いの快感に浸っているのが実情のようだ。

西部劇から「荒野の決闘」、「ショーン」、「リオブラボー」・・・枚挙にいとまがない。黒澤作品から「七人の侍」、「生きる」、「椿三十郎」、「用心棒」・・・枚挙にいとまがない・

ヒッチコック作品、ジョンウェイン、イングリッシュバーグマン、

「カサブランカ」「誰のために鐘は鳴る」「第三の男」、「ローマの休日」

その後長い間、テレビを見る機会もなく、又高校時代から大学にかけて下宿生活を送っていた事もあり、下宿先の家族がワイワイ言いながら「てなもんや三度笠」に熱中しているのを横目で見ながら、指をくわえ自分の部屋で三菱ダイヤコーンのラジオにかじりついていた。